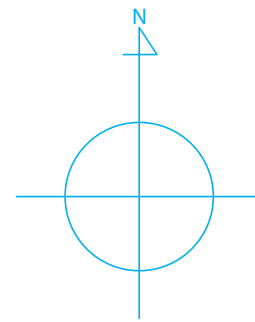


## ◎吉野・川上村…ここは、水のふるさと

源流には、<sup>まち</sup>都会が捨てた文化が残る。  
<sup>まち</sup>都会の人々の心のよりどころである。  
 日本人が捨ててはならないふるさとである。



① 匠の聚



② 山幸彦のもくもく館



③ 大滝ダム



④ 湯盛温泉「ホテル杉の湯」



⑤ 森と水の源流館



⑥ 水源地の森



森と水の源流館 (財団法人 吉野川紀の川源流物語)  
 〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平  
 Tel.0746-52-0888 Fax.0746-52-0388  
 www.genryuu.or.jp E-mail: morimizu@genryuu.or.jp

川上村 水源地の村づくり課  
 〒639-3594 奈良県吉野郡川上村大字迫1335-7  
 Tel.0746-52-0111 Fax.0746-52-0345  
 www.vill.kawakami.nara.jp E-mail: suigenchi@vill.nara-kawakami.lg.jp



企業との協働による

# 環境メッカ創造プロジェクト

パートナーを  
募集しています。



kawakami village, Japan

多様性の源 水源地のむら  
 奈良県吉野郡川上村



# サステイナブル企業へのメッセージ

## 森と水と人と。～私たちは「川上」に暮しています～

吉野林業発祥の地・川上村。その約500年にわたる歴史と日本三大人工美林である吉野杉の美林は私たちの誇りです。そこには、自然と共に生きる人々の知恵が蓄積されています。

一方で、吉野川の源流部・三之公川流域の一带には、手つかずの天然林が残されています。あらゆる生命を支えるこの貴重な天然林を後世に残すため、川上村では約740haを購入し、「水源地の森」として保存することにしました。「森と水の源流館」は「水源地の森」を保全しながら、森の美しさ、森の大切さを多くの人に伝えるため、川上村ならではの環境教育プログラムを内外に提供しています。

さらには、下流域に水を供給し、洪水から人々を守るダムもあります。

このように川上村は、人と自然のかかわり、その歴史と“今”が見渡すことができる地域であり、人の営みの尊さと自然の営みの尊さが同時に息づいています。地球温暖化や生物多様性減少など地球レベルの環境問題が顕在化する中、人と自然が共生するためのヒントがたくさん残っている場所であると自負しています。

しかし、時代の変化とともに、「川上」では以前のように林業を通して、あるいは暮らしの中で森と水の恵みを守ることがむずかしくなっているのも事実です。企業のみならず都市部の方々にも参加いただきながら、このかけがえのない財産を未来に引き継ぐ仕組みが必要であることを痛感しています。

## 『川上宣言』から「環境メッカ創造」へ

1996年、川上村は全国に向けて『川上宣言』を発信。水源地の村に生きる覚悟と持続可能な社会への決意を示し、「水源地の村づくり」に取り組んできました。

さらに、このたび「環境メッカ創造プロジェクト」を立ち上げました。多様な自然のメッカとして、人が「生きる力」を養うメッカとして、多くの可能性を秘めたこの地を「協働の場」と位置づけ、まさに「地球環境に対する人類の働きかけの、すばらしい見本になる」という夢の実現に向けて、企業のみならずと一緒に「環境のメッカ」を創り上げていきたいと願っています。



### 「川上宣言」

「私たちは川上は、かけがえのない水が  
つくられる場に暮らすものとして、  
下流にはいつもきれいな水を流します。」  
「私たちは川上は、自然と体となった  
産業を育んで山と水を守り、  
都市には豊かな生活を築きます。」  
「私たちは川上は、都市や平野部の人々にも、  
川上の豊かな自然の価値にふれあつて  
もらえるような仕組みづくりに励みます。」  
「私たちは川上は、これから育つ子どもたちが、  
自然の生命の躍動にすなおに感動できる  
ような場をつくります。」  
「私たちは川上は、川上における自然との  
つきあいが、地球環境に対する人類の  
働きかけの、すばらしい見本になるよう  
努めます。」

# —「環境のメッカ」への夢—

## 740haからはじまる物語

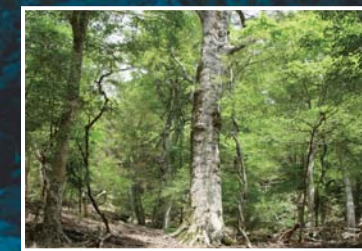
### —生態系サービスと生物多様性—

「下流にはいつもきれいな水を流します」。『川上宣言』でうたったように、川上村が水源地の村として常に心がけていることです。しかし、源である水を育むのは私たちではなく「森」です。先ず、この“事実”に目を向けていただきたいのです。田畑をうるおし、人間の生存や産業にとって不可欠な水。その恵みをいただくためには、森がきちんと守られなければなりません。

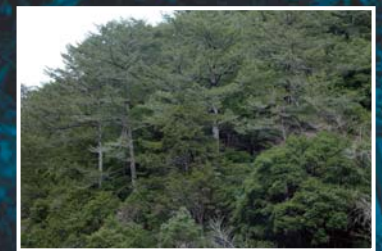
川上村が購入し、保全する「水源地の森」約740haは、人間に多くの恩恵を与えてくれるだけではありません。多様な植物や動物のいのちが共存する天然林です。カシ類を主体とする常緑広葉樹、ブナを主体とする落葉広葉樹、トガサワラ原始林など、豊かな植生が確認されています。ここにツキノワグマ、ニホンカモシカ、クマタカ、オオダイガハラサンショウウオ、源流域を中心に生息するアマゴなど、貴重な生き物が数多く生息しています。



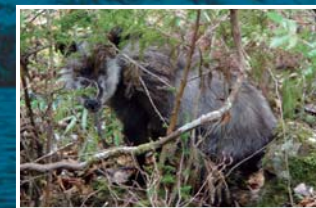
■ウラジロガシ、ツクバネガシ等を  
主体とする常緑広葉樹林



■ブナを主体とする落葉広葉樹林



■トガサワラ原始林



ニホンカモシカ



アマゴ



タカハヤ

環境メッカ創造プロジェクトは、  
この生物多様性に富んだ「水源地の森」からはじまります。



# 企業・団体のみなさまと取り組みたいこと(例)

## [自然のメッカ]

### 美しい森や水を まもる

#### 【1】「芽吹き」の砦プロジェクト

「吉野川源流-水源地の森」のすぐ隣、同じ原生林であったところで、約20年前から製紙用パルプの原料として大規模な伐採が行われました。その後は、二次林として再生がはじまっていますが、斜面崩落が進む箇所が多く見られ、流れ出した土砂により渓谷が埋められ、源流の風景と生態系を変えています。この崩落する斜面に、吉野杉の間伐材を利用した木柵を設置し、土留めを行うとともに、そこにあらたな雑木の根付きを助ける環境をつくる「芽吹き」の砦プロジェクトに取り組んでいます。

すべての生命を育む森と源流を守るため、この源流域の実態を多くの人に知ってもらいたい。そして崩壊のスピードに負けないよう、砦の設置を進めていきたいと考えます。

#### ➡「芽吹き」の砦設置費用にご協賛ください。

※延長50mの設置に約50万円の費用を必要としています。

※協賛団体名のプレートを現地と川上村役場前に設置するほか、森と水の源流館やホームページ上でもご紹介します。

#### ➡「芽吹き」の砦設置体験にご参加ください。

※本来の設置工事は、危険な斜面のため、山林仕事の経験者によって行いますが、間伐材の調達や木柵づくりを体験的に行っていただきます。



#### 【2】水源地の「森守募金」

「森と水の源流館」(財団法人吉野川・紀の川源流物語)にてお預かりするこの募金は「芽吹き」の砦設置費用の一部のほか、毎年、奈良県全域と和歌山県の紀の川流域の小学校生に配布する学習教材の作成や、原生林保全のための啓発看板設置などに利用させていただきます。

#### ➡募金へのご協力をお願いします。



## [未来創造のメッカ]

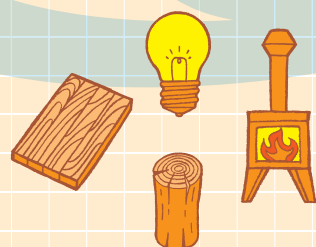
### 持続可能な未来を つくる

#### 【5】新しい産業の創造

エコ商品の共同開発や「森」「木」「水」にちなんだコース・リレーテッド・マーケティング(CRM)など、企業と山村のあたらしい関係を探ってまいります。

#### ➡あらたな市場開拓、商品開発や調査・研究の機会として、川上村と連携ください。

※みなさまの持つノウハウや市場をいかし、吉野の間伐活用や、再生可能な自然エネルギーの研究などについて、川上村の可能なサポートを検討いたします。



### ◎将来的に取り組みたいこと

#### 【NEXT】次世代につなぐ理想の森づくりへ

森林のCO<sub>2</sub>吸収機能を発揮させるためには、「植える-育てる-収穫する-使う」という健全な循環サイクルを取り戻すことで更新された「若い森」が必要ですが、木材価格の低迷や林業の担い手の高齢化などによって、日本中に手入れが行き届かない森(人工林)が増えています。

林業のふるさと・川上村も例外ではありません。次世代に、どのような森を、どのように引き継いでいくのか。川上村では、吉野林業の良い点を継承しつつ、あらたに「環境共生モデル人工林」づくりにチャレンジしていきたいと考えています。

#### ➡理想の森づくりに、企業のみなさまの力(アイデア、ノウハウ等)をお貸しください。

川上村を知っていただき、触れていただきながら、森のこと、山村のこと、林業のこと、ひいては日本の環境の未来を一緒に考えてください。  
その先に、次世代に引き継ぐ「理想の森づくり」の姿が見えてきます。

## [環境教育のメッカ]

### 川上の自然や源流の村人に まなぶ

#### 【3】「源流学」の森づくり(体験型森林環境教育)

「源流学」とは、現代社会が失ってしまった源流域での様々なものごとを通して、人と自然の役割について考え、行動し、その体験の中から一人ひとりが答えを見出していく取り組みです。「源流学の森づくり」では、森の達人に学びながら、森の手入れを行います。現地の拠点となる山小屋での五右衛門風呂や囲炉裏も貴重な「源流学」体験の仕掛けです。

#### ➡職員研修やコミュニケーションの機会としてご参加ください。

※森づくりプログラムのほかに、川上村のさまざまなスポットや施設を合わせたプログラムの企画が可能です。日帰り型・宿泊型など、みなさまのご要望をお聞きしながら組み立てます。

#### 【4】相互交流による「つながり」づくり

いろいろな機会を通じて山村へお越しください。自然と人のかかわりについて考え、時には温泉でゆっくりとおくつろぎいただき、企業・団体活動の新たなエネルギーにしてください。また、こちらからも、まちへと出てまいります。みなさまの職員交流会等のイベントに参加し、山村の情報を発信する機会をいただければ幸いです。行ったり来たりつなぐで、川上村がみなさまの「心のふるさと」となります。

#### ➡川上村のさまざまな施設をご活用ください。

※たとえば、宿泊施設や温泉、その他施設のご利用など、ご希望のプログラム作成をお手伝いします。



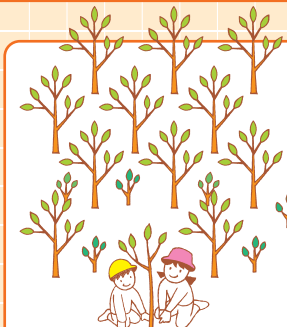
皆伐により、森を開きたい。

川上村の吉野林業の森では、高い密度でスギやヒノキが植えつけられてきました。しかし、手入れが進まないまま伐採適齢期を迎えた森が多くなっています。あらたな森づくりのために、適切な皆伐により、この森を開くことが必要です。



伐り出した原木の有効な活用を考えたい。

積極的に日本の「木を使う」ことが、日本の森をまもることにつながります。環境配慮商品やオフィスの調度品などへの活用、地域や教育機関への机、椅子、遊具等の寄贈など、あらたな活用方法をみんなで考えることが求められています。



針葉樹だけでなく広葉樹を交えた森をつくりたい。

木材の生産と環境が共生する人工林として期待される針広混交林。多様性のある人工林が、生物の多様性を育みます。川上村が目指すことの一つとして、「環境共生モデル人工林」の実現に向けた第一歩です。



みんなで森の成長を見守り、いかしたい。

「環境共生モデル人工林」では、下草刈りや除伐などの林業体験、森の観察会、環境教育やレクリエーションの場として活用いただくなど、森とふれあう機会を創造し、みんなで育てる森づくりを目指したいと考えています。

「まもる」「まなぶ」「つくる」。貴社のご希望に沿うご参加のカタチがありましたら、森と水の源流館までご連絡ください。  
また、森と水の源流館ホームページに「ご相談シート」がありますので、そちらもご利用ください。

E-mail ▶ [morimizu@genryuu.or.jp](mailto:morimizu@genryuu.or.jp)

URL ▶ <http://www.genryuu.or.jp/>



# 多様なセクターが参加して、国民共通の財産を未来へ！

## 川上村が維持する 「日本の価値」

- 森林の価値（経済価値・環境価値）
- 水源の価値
- 景観としての価値
- 自然との共生・歴史の価値
- 文化的価値

みんなで

## 企業様のサポートによる 継続・推進

- 水源環境の保全サポート
- 環境教育へのサポート
- ツーリズム活性化へのサポート（利用促進・地域PR）
- 「環境のメッカ」での企業シーズを活かした研究・実験
- （低炭素社会に資する）あらたな地域づくりへの参加・貢献

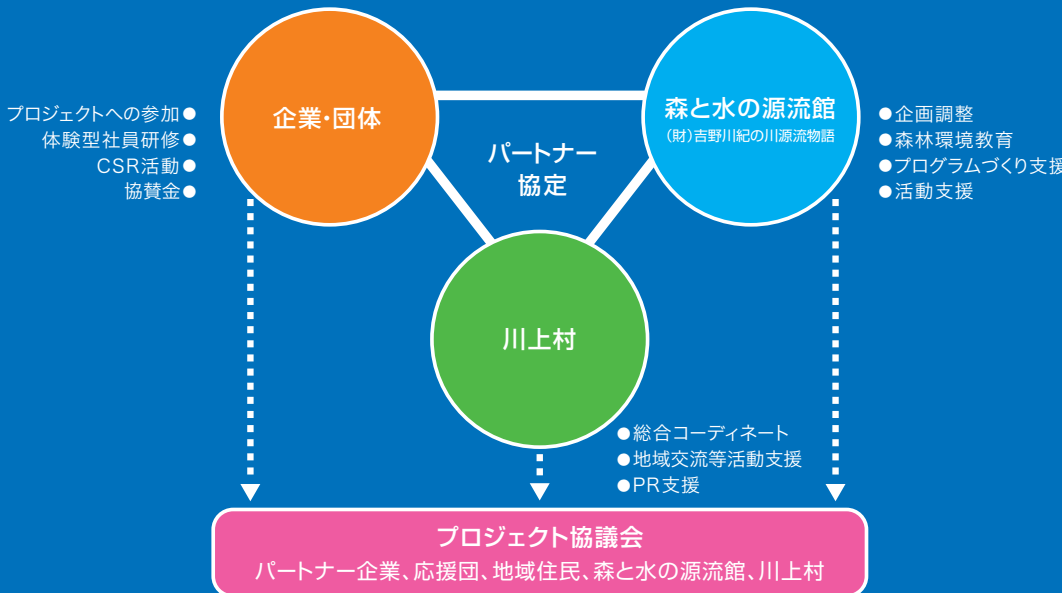
## 「環境のメッカ」へ

都市と山村の交流をデザイン  
してきた実績とノウハウ！

「森と水の源流館」が責任をもってコーディネートいたします。

### 環境メッカ創造プロジェクト

- 協賛金は実施内容によって要相談とさせていただきます。●協定期間は特に定めません。●その他、企業様のご要望をお聞きした上で協定内容を決定します。



## 「環境のメッカ」応援団



いのうえ まさたか  
**井上 正崇 さん** 大阪工業大学 学長

専門は半導体電子工学。これまで大阪大学（1973～1984年）ならびに大阪工業大学（1984年～）において教育・研究に従事。この間、電子物性や新機能デバイスの研究を行う。工学部長等の役職を経て2007年より大阪工業大学学長。現在、大学基準協会評議員、関西社会人大学院連合理事、関西サイエンス・フォーラム理事等の公職も多数務めている。

### 環境共生を考える人材育成

ものづくり教育が原点の本学は、技術者としての倫理を大切に、環境共生を考える人材育成を目指しています。  
学生たちが川上村の豊かな自然環境の中で地域の方々と触れ合い、地域資源を生かした連携事業を通して貴重な学びの場を提供いただいていることを大変ありがたく思います。  
本学もこのプロジェクトの応援団として、「環境メッカ」創造のお役に立てるよう研究成果を還元し、学生の若い力で活動を展開していきたいと思っています。



さとう のりこ  
**佐藤 紀子 さん** 在大阪モンゴル国領事館 名誉領事

1970年代、生協活動の中で「環境問題」や「食の安全」、「ゴミ問題」に取り組み、生活者の立場から特に水、土、空気に関心をもちてきた。また当時はそれぞれのフィールドの中で模索していた生活者と研究者の連携、消費者と生産者、上流と下流、町と村をつなぐなどの運動を展開してきた。今や問題は家庭の台所から飛び出して、国境を越えてとらえねばならないところまできている。現在は在大阪モンゴル国名誉領事として日本とモンゴル国2つの場所から、これらの問題を見つめている。

### 川上の覚悟を共有して生きたい

まだダムがつくられていない時代の川上村は桃源郷のようにそこに存在していました。ダム建設と言う現代社会のくびきを背負った川上の悩みは川上だけのものにしてはいけないと思いながら、今日まで見守って参りました。今、川上がチャレンジしようとしている「環境のメッカ」への夢は、現代社会に生きる私たちが未来へ向けて発信する～森と水と人～の命を守る試みだと受け止めました。私も川上の覚悟を共有して生きたいです。



たけむら こうたろう  
**竹村 公太郎 さん** 特定非営利活動法人日本水フォーラム 代表理事・事務局長ほか、博士（工学）

1970年東北大学工学部修士修了後、建設省に入省。近畿地方建設局長等を経て国土交通省河川局長。2002年に退官後、2004年に財団法人リバーフロント整備センター理事長、2006年5月より現職。著書に「日本文明の謎を解く」（清流出版2003年）、「本質を見抜く力（養老孟司氏対談）」（PHP新書2008年）など多数。

### 環境のメッカに参加します！

川上村の「環境メッカ創造プロジェクト」の発足をお祝い申し上げます。水は生命の源です。川上村は奈良県民の命を、永遠に支えていくこととなりました。大滝ダムを建設したのは国土交通省ですが、貯水池を支えていくのは川上村なのです。その川上村が「環境メッカ」を宣言したことに深い感銘を受け、村民の方々に心から敬意を表します。  
神々が宿る聖なる山々と吉野川を守り、多様な生態系と共に人々が永続的に生きていく川上村の「環境メッカ創造プロジェクト」に、この私も参加させていただきたいと願っています。



みやぐち としみち  
**宮口 侗廸 さん** 早稲田大学 教授

富山県の山村に生まれ、東京大学で地理学を専攻、地方社会の発展のあり方について発言を続ける。かつての川上サミットで川上宣言を提案し、多自然居住地域という、都市的発展とは異なる発展のあり方の追及が必要と提言した。総務省過疎問題懇談会座長として過疎法の拡充・延長に尽力。

### この国に生きる価値

厳しい地形の中で数百年にわたって林業を育ててきた川上村で、また一つ、新しい試みが始まります。  
川上村は、奈良盆地を始めとする地域の水源地として、ダム建設問題に揺れ、林業に加えて奥地の自然の価値を世に伝えるべく、努力を重ねてきました。  
暖かい時期にも雨のある日本は、まさに生命育つ風土のもとにあります。この国に生きる価値を、都市の企業の方々にも育てていただきたいと強く思います。



なかもら ぶんめい  
**中村 文明 さん** 多摩川源流研究 所長

中央大学法学部卒業後、中村英数塾経営などを経て、1994年多摩川源流観察会を結成（会長）。2001年多摩川源流研究所を設立（現職）し、全国源流ネットワーク代表などを歴任。「多摩川源流体験ツアー」「多摩川源流写真展」の企画・開催、TV出演、新聞連載など、幅広く活動している。

### 源流の未来を切り開く事業

源流は、国土保全・環境保全の最前線に位置しており、その水や森林資源は、国民共有の財産である。  
地球温暖化が進行する中で、源流域の水や森林を社会全体でどのように守っていくべきか、これは現代社会の大きな課題である。  
今回の「企業との協働による環境メッカ創造プロジェクト」は、まさにこの課題に正面から挑戦する先駆的な事業である。源流の未来を切り開くこの事業の成功を祈る。



さの すみこ  
**佐野 純子 さん** 全国地域づくり団体協議会 奈良県代表

大阪市生まれ。奈良インターカルチャー代表、奈良市国際交流ボランティア協会 事務局長など。TV番組「都のかほり 奈良」番組コーディネーター。2004～2005年「吉野楽講座」第一章～第五章フォーラム企画。奈良インターカルチャーでは、奈良県内魅力紹介特別プログラム企画を全国の奈良ファンに情報発信・講座開催の他、奈良県ビジターズビューローより委託を受け「奈良ファン倶楽部 解説付き特別拝観」の企画・当日進行を担当。奈良県内での地域の魅力紹介活動は、1990年より始まる。

### 関わる人々の笑顔と情熱

皆さん、奈良県川上村のHPをご覧ください！水源地の森を持つ川上村が取り組む『環境問題』は、奈良県内の各地域のみならず日本全国至る所で現在直面している様々な問題です。私が川上村を大好きになった切っ掛けのひとつが「水源地の森」を川上村が購入した事。そしてそこに関わる人々の笑顔と情熱。小さな村のこの大きな取り組み、先人達が大切に守って来た私達の『ひとしずく』の物語を一緒に発信しましょう！

掲載させていただいた方々以外にも、たくさんの方に応援団としてご参加いただく予定です。